

## 議事録【要旨】

会議名称	令和元年度第3回泉南市総合教育会議		
日 時	令和元年7月22日（月） 午後4時30分～午後5時30分	場 所	泉南市役所 2 階大会議室
出席者	竹中勇人市長、古川聖登教育長、片木哲男教育委員、柳澤泰志教育委員、 藪内進教育委員、太田淳子教育委員		
事務局等出席者の職氏名	（事務局職員） 真鍋康之副市長、野澤幸徳総合政策部長、伊藤公喜総合政策部次長兼政策推進課長、古木孝彦秘書広報課長、山下修宏政策推進課主査 （教育委員会事務局職員） 岡田直樹教育部長、稲垣豊司教育部参与、桐岡秀明教育総務課長 岡崎進一教育総務課主幹兼総務係長、森岡夕貴教育総務課総務係員		
議 題	泉南市教育大綱について		

### 【事務局職員（総合政策部次長兼政策推進課長）】

定刻となったので、令和元年度第3回泉南市総合教育会議を開催する。

本日の議題は、第2回総合教育会議で提示した教育大綱（案）に対して、各教育委員及び両事務局で修正を行っているので、修正内容について御議論いただきたい。

それでは、市長に座長として会議を運営いただく。以後の議事進行をお願いします。

なお、本日、傍聴等の要請はないことをお伝えする。

－開会－

### 【市長】

第2回総合教育会議で御議論いただいた教育大綱（案）について、本日、いただいた御意見を反映した修正案をお示しするので御議論いただきたい。修正箇所については、新旧対照表に記載させていただいた。修正内容について、事務局から説明願う。

### 【事務局職員（教育総務課長）】

本日お示しする教育大綱の修正（案）については、第2回総合教育会議でいただいた御意見等を反映した結果となっている。新旧対照表で説明させていただく。

（追記・変更箇所説明：5分）

### 【市長】

事務局から教育大綱の修正（案）についての説明があったが、御質問、御意見等はないか。

### 【片木教育委員】

6 ページの「基本方針2 小中学校の教育力の充実」に「⑥小中一貫教育による学習の

充実」とある。3年前に教育問題審議会において、小中一貫教育が泉南市の教育目標として位置付けられた。小中一貫教育を推進することで、基礎学力の向上、人間性や社会性の育成等につながると思うので、この項目については、一番上に記載する方がよいのではないか。

**【事務局職員（教育部長）】**

記載の順序については、変更することは可能である。今回の修正については、第2回総合教育会議において、小中一貫教育は、手段であり目的ではないという御意見があったことから、表現を変更させていただいた。

**【市長】**

この項目については、現在の教育大綱に追加した項目なので、最後に記載するものと考えているが、記載順位について御意見等はないか。

**【柳澤教育委員】**

小中一貫教育は、手段であって目的ではないので、小中一貫教育ありきになるのもいかなものか。

**【片木教育委員】**

小中一貫教育を導入するに当たり、目標として基礎学力の向上が上がってきたので、「⑥小中一貫教育による学習の充実」については、「①基礎学力の向上」の上に記載する方がよいのではないか。

**【柳澤教育委員】**

泉南市として、「①基礎学力の向上」や「②豊かな人間性と社会性の育成」は、今まで教育のベースとしてあった中で、新たに小中一貫教育へ取り組むこととなったので、上位と考える必要はないかと考える。いずれの項目も重要だ。

**【教育長】**

最後に記載することで、包括的に推進すると捉えているので違和感はないと考える。

**【片木教育委員】**

小中一貫教育への取組は、今までにない手法のスタートであり、重要性もあるのでもう少し上に記載してもいいかと考える。

**【柳澤教育委員】**

子ども達に身近なものとして考えると、給食であり、これまでもベースとして基礎学力の向上等を目指している。小中一貫教育については、これから先のことなので、この記載でもいいのではないかと考える。

**【教育長】**

先ほど申し上げたとおり、小中一貫教育は、「①基礎学力の向上」や「②国際化教育の推進」を踏まえて、文言を修正すれば、より包括的に推進する意味合いが強くなる。

**【事務局職員（総合政策部次長兼政策推進課長）】**

現教育大綱を策定する際、項目の数字や記載の順番については、順位付けのイメージを持ちやすいが、軽重の区別なく推進すると考え策定している。「⑥小中一貫教育による学習の充実」については、今回、追記ということで、最後に記載している。

**【市長】**

「⑥小中一貫教育による学習の推進」については、ここに記載している項目全体を包括できるように文言を修正し、皆様にお知らせすることとしてよいか。

(異議なし。)

**【事務局職員（教育総務課長）】**

御指摘いただいたとおり、「⑥小中一貫教育による学習の推進」については、事務局で基礎学力の向上などを包括的に含む表現に修正した上で皆様にお示しする。

**【太田教育委員】**

5 ページに「⑤国際交流の推進」、6 ページに「④国際化教育の推進」と2 箇所記載しているのはよいと思うが、私が聞いた話で、海外の学生と話をした学生がいて、ある子は、相手の国のことを勉強していたが、自分の地元のことを知らず紹介できなかったそうだ。一方、別の子は、地元で友達もたくさんいて祖父母もいる子で地元のことをよく知っていて、海外の学生と色々な交流ができて深く分かり合えたということだった。

国際交流や国際化教育に関する部分に自分の国の文化や歴史を知ること重要だという内容を記載していただければと思う。

**【事務局（教育部長）】**

外国の文化に触れる以前に地元の文化や歴史に触れることが大切だということだが、5 ページの「①の人権保育教育の推進」の中で、「全ての子どもが性別、国籍、障害の有無、生まれた環境等にかかわらず、自己に誇りを持ち、互いの人格を尊重し合える豊かな関係を育めるよう人権保育教育を推進します。」とあり、自分の人格を尊重する中で環境について知ることが含まれる。また「②保育教育環境の推進」でも、多文化共生を進めるためには、アイデンティティの確立が必要であり、その中で地域のことを知る、学びと育ちを支援することが含まれている。

5 ページの「⑤国際交流の推進」や6 ページの「⑥国際化教育の推進」を進める中では、それらを含めて進めていきたい。

**【事務局（教育総務課長）】**

6 ページの「⑤食育の推進」の中で食育をきっかけにして、地域の伝統や文化を理解するという部分もある。

**【市長】**

私も初めて海外に行ったときは、海外の良さを感じて帰ってきたが、2 回目からは、日本の良さやそれぞれの国の良さを感じた。太田委員がおっしゃられたとおりだ。他の国のことを学ぶのはもちろん自分の国のことを学ぶことも大切だ。この件については、事務局の説明でよろしいか。

**【太田教育委員】**

はい。

**【柳澤教育委員】**

日本のアニメーションなどは外国で非常に評価が高い。京都に来られる外国の方は、日本が好きで勉強されている。国際化とは、相手を理解することも必要だが、日本人が自分

の国のことを案内できるかというのも国際化には必要だと思う。そういう意味で自尊心を磨くということが本当の意味での国際化だと考える。

**【教育長】**

「④国際化教育の推進」に、日本の文化や伝統などの理解に関する文言の追加を検討する。

**【太田教育委員】**

「⑤国際交流の推進」についてはどうか。

**【教育長】**

就学前保育教育に関しては、遊びの中でいろいろなことを学ぶという重要な段階で、教え込むという表現はそぐわないと考える。

**【市長】**

ほかに御意見等はないか。ないようであれば、6ページの一部を修正させていただき、皆様に周知させていただいた上で、成案とさせていただいてよろしいか。

(異議なし。)

**【市長】**

教育大綱策定後、教育振興基本計画を策定していただくこととなる。事務局から事務連絡等はないか。

**【事務局職員（総合政策部次長兼政策推進課長）】**

本日御議論いただいた内容を教育大綱（案）に反映させ成案化した上で、教育委員の皆様に周知させていただく。

**【市長】**

本日の総合教育会議はこれにて終了となります。ありがとうございました。

—閉会—

令和元年7月22日

泉南市長 竹中 勇人

泉南市教育長 古川 聖登